

「通勤儀礼」

猪口 邦子



はないが、車中は、執筆の
助走に入り、気持ちを高め
ていく大切な時間である。
車中で読むのは必ず、古典。
知の殿堂の扉をたたく思い
からかもしれない。長年の

読者の評価に耐

えた古典は、

知的な一日

に挑む朝の

高まる気持

ちを決して裏

切らない。

る。先般、話

題のビル・クリ

ントン『マイライ

フ』を読んでいたら、

大統領は『ガリア戦記』

を読むどころか、ラテン

語で暗誦（かみじゆ）したと書いて

あり、思わず一人笑いして

しまった。

ジュネーブでは電車通勤

とは無縁の、外交ナンバー

ーから始まる大使の車で朝

から交渉に向かう日々であ

った。電車通勤がないとい

うことは、古典も読まず、

本も書かない生活を意味す

るが、他方で、公用車に乗

るということは、書くに値

する歴史を作り出すという

すさまじい責務を意味する

ことを今さらながら思う。

私の朝は早く、早
朝プログラムとも言う

べき出勤までにやること
が多い。軍縮大使を終えてジ
ュネーブから帰国して半年
たつが、英語での講演依頼
や取材もあるので、表現力
を維持するために、まず毎
朝届くヘラルド・トリビュ
ーン紙の一面の記事を、家
族の朝食を作りながら何度
か音読する。黙読ではななく
音読するのがコツ。研究や
執筆に専念する長い一日に
備えて、バレエストレッチ
体操で体調を整えるのも
早朝プログラムの一部で
ある。

自宅から研究室ま
での通勤時間は落
ち着いて本を読
めるほど長く

今年の夏は、軍縮外交の
手記を含む新著『戦略的平
和思考―戦場から議場へ』
を脱稿することに専念し、
だれよりも早く研究室に入
る毎日であった。その通勤
時間に読んだ本はジュリア
ス・シーザー『ガリア戦記』
やヘンリー・ソロ

―『森の生活』。

前者は戦略的

に政治課題

を成就させ

るとはい

かなるこ

とか、後者

は深い反戦

平和の追求と

はいかなること

かを示す名著であ

いのぐち・くにこ 上智大
法学部教授・国際政治学。二
〇〇二年から四年まで軍縮会
議日本政府代表部特命全権大
使。著書に『ポスト覇権シス
テムと日本の選択』『戦争と
平和』（吉野作造賞）。